

Glocal Tenri



11

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.21 No.11 November 2020

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
土壌の質
／永尾教昭..... 1
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (43)
「おさしづ」第6巻における刻限／本席上
伺と「道」
／澤井治郎..... 2
- ・ 日本語教育と海外伝道 (28)
新型コロナウイルスと日本語教育②
／大内泰夫..... 3
- ・ イスラームから見た世界 (7)
天理教とイスラームの出会い⑤—戦前・戦
後のイスラーム認識
／澤井 真..... 4
- ・ キルケゴールで読み解く 21 世紀 (26)
オンライン上のキルケゴール—電腦空間の中
の哲学
／金子 昭..... 5
- ・ 宗教伝統における聖典の意味構造 (3)
インドにおける「語られる聖典」とその伝承
／澤井義次..... 6
- ・ 遺跡からのメッセージ (63)
大和の文化遺産を学ぶ① — 一社之内キャンパス周
辺から—
／桑原久男..... 7
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ
関係試論 (37)
閑話：熱帯雨林の話
／森 洋明..... 8
- ・ 天理参考館から (22)
スポーツの歴史と文化 (3) 「走る」その3
／幡鎌真理..... 9
- ・ 図書紹介 (120)
『神を待ちのぞむ』
／金子 昭..... 10
- ・ おやさと研究所ニュース..... 11
第333回研究報告会 (八木三郎)
／第21回宗教倫理学会に参加 (堀内みどり)
／第79回日本宗教学会に参加・発表 (堀
内みどり) / 『グローカル天理』年間購読
のご案内 / 2020年度公開教学講座の案内

巻頭言

土壌の質

おやさと研究所長 永尾教昭 Noriaki Nagao

天理教には青年会や婦人会があるが、この会活動が教勢発展に大きく寄与してきたのは紛れもない事実である。そして基本的には、海外でも性別で分けるこの会活動は維持されている。

ある国で、毎日のように一緒に近くの天理教拠点に参拝をしていた現地人夫と日本人妻の夫婦があった。欧米社会では、夫婦で行動を伴にすることがごく普通だ。ところが、ある日、夫が妻から「今日は婦人会の会合だから、あなたは参拝に行ってはいけない」と言われ激しく気落ちした。

筆者が天理教ヨーロッパ出張所長在任中、若い信仰者たちから、性差を超えて男女一緒に活動をし、結果多くの若者が繋がってきたが、これをそのまま続けて良いのかと相談を受けた。筆者は当然即座に許可した。そもそも会活動は教勢の進展や会員の教理研鑽のための手段であって、会活動それ自体が目的ではない。もしそれらが、上記夫婦の例のように信仰活動の妨げになるなら本末転倒も甚だしい。

天理教婦人会は、1910 (明治43)年に設立されるが、婦人会を設立せよとの「おさしづ」(主に、教祖が身を隠した後、本席飯降伊蔵によって伝えられた神言)は、さらに早く1898年に出されている。それは「婦人会始め掛け。」(明治31年3月25日)、「男女の隔て無いと言う理は、重々の理に論じたる。……この道、男だけで、女は世界へ出さんのか。」(明治31年3月30日)というものだ。

当時の日本社会における女性は、政治的には1890年の「集会及び政社法」で政治的演説会への参加や政党への加入は禁止されていた。もちろん選挙権はない。教育の面では、大学など高等教育機関へは、例外を除いて女性はいれず、主に裁縫などを教える女学校があった。帝国大学は事実上女性を締め出し、ようやく1913年

に東北帝大 (現東北大) に初めて3名が入学した。1898年制定の民法でも、女性きたのは紛れもない事実である。そして結婚すると法律上の能力を有さず、夫の許可を必要とした。

このような時代に、上記の「おさしづ」が出されている。これは画期的なことだろう。「女は世界へ出さんのか」の「世界」とは、必ずしも海外を意味するのではなく、一般社会のことである。つまり、家に閉じ込められていた女性を社会に進出させることを促しているのであり、男女が一緒になって教団の進展のために尽くすことを要請されているのだと思う。ところが、時間が経過するにつれて、先に述べた夫婦のように、男女が別々に活動することが趣旨であるといった誤解をしている面はあるだろう。

では、海外、とりわけ欧米社会に天理教の布教が進捗していくのに、青年会や婦人会など性別で分けた会活動は、むしろ足枷になるのか。筆者は、そうは思わない。なぜならば、欧米発祥の女性だけの団体も決して少なくないからだ。女性同士で集まることの意義があるからだろう。例えば、国際ソロプチミストは1921年にアメリカで設立され、現在世界128カ国で活動している。

昨今変わってきたとは言え、日本では大勢が集まると、男性、女性と自然に席も分かれることが多い。それに対して、欧米では交わることが普通だ。そこに性別で分けた会を持っていくときは、それなりに工夫はするべきだろうと思う。

要するに、日本で生まれ育った植物をそのまま海外で植えたら、土壌の質が違うので立ち枯れをすることがある。だから土ごと日本から持って行こうとする。つまり日本人コロニーを作ってしまう。しかし、これは海外布教ではない。海外布教とは日本で育った植物を、その国でも大きく育ち、繁殖していくように、やや品種改良することだろう。